



# 社会を変える「自分づくり教育」と私

仙台自分づくり教育研究会会長 山口 哲 男

私は、自分の周囲に現れるあらゆることから目を背けることなく、全て自分のこととして受けとめてきました。

**自分にできることはなんだろうか。**

**自分ならどうできるだろうか。**

ところで、私が初めてPTAにお誘いをいただいたのは、長男が小学校2年生の時の監事の仕事。新たな人間関係を織りなす第一歩であり、その後の13年間のPTA生活を経て今に至るきっかけとなりました。

そして、そのPTA活動の締めくくりの1998年仙台市PTA協議会時代に、全ての大人が、学校を中心として、子育て時代への継続的で全世代的な社会全体を挙げての支援をする機構を提案し、「PTA教育研究所（仮称）」機構を企画・提案しましたが、時期尚早（？）と捉えられたのか、実現に至ることはありませんでした。残念な気持ちが強く、同機構をPTA卒業時、仙台市教育委員会に提出し、実現を委ねました。その後、日の目を見ることとなり、『楽学プロジェクト』誕生のきっかけから『仙台自分づくり教育』の推進に寄与することになりました。

最初に本格的に取り組んだのは、文部科学省のキャリア教育推進に伴うモデル校〈寺岡中学校〉の職場体験（5日間）の体験先探しの補助的役割でした。

5日間の体験という、今まで例のない活動は体験先も学校も生徒も不安と気苦労で大変でしたが、その有効性は証明されております。しかし、現在の学校教育への様々な要求量の多さは、現場での疲弊に繋がっており、理想より現実の3日間への移行が強くなっている事は残念至極です。子どもたちの育成への近道は無く、じっくり育てることが必要なのですが。

『楽学プロジェクト』以来、子どもとその生きていく社会に必要なと思われることには、何でも自分のことのように思え、関わってきました。

大人の役割りは大きく深い。

誰の責任でも無いが、私たちは大人の作ってきた社会全体で、その役割を担わなければならないと思います。

特に、企業・団体は、その社会に存在する証として果たさなければならない条件があります。もちろん、商品やサービスが正しくあらねばならない事は当然ですが、それに加えて、社会の中での存在自体が有益であり、できる限りの社会貢献を成すものでなくてはならないということです。

現在、全国の小中学校では、地域学習とキャリア教育の実践舞台として、地域にある企業・事業所への支援を求めています。仙台でも同様ですが、受け入れ先では好意とはいっても何の代償がある訳でも無く、負担の大きさは結構なものがあります。

また、『楽学プロジェクト』に於けるプロの職業人の皆様が、1～2日間の貴重な時間を提供し、1000人以上の小中学校に50近い講座を体験してもらっていることも、同様に大人の役割を果たしてくれていると言えるでしょう。

今、2年前に有志により緩やかながら理想的な教育環境を目指すために立ち上がった『教育の未来を支えるネットワーク』では、教育環境を表現する手法として演劇を通して、誰でも解かり易く理解してもらえ活動を始めました。教育・児童福祉・経済活動・まちづくり活動等での実践者が力を合わせて動き出しました。

子どもを育てる活動が、実は大人としての自分づくりになっている事実を楽しみながら。

